

# テーマ 「継ぐ・繋ぐ」

強い決断力と突破力が求められる起業。家業を継ぐことは、それ以上に困難とも言われている。国税庁の統計では設立20年での生存率は0・4%という数値も出ている。では、こうした厳しい状況をくぐり抜け、事業を継続・発展させているのは、どんな企業なのだろうか。今回はそれぞれの思いで事業を承継した経営者二人を招き、神髄に迫る。

平成30年9月25日(火) 開始14時(受付13時30分) 終了18:30 会費2,000円  
会場 群馬ロイヤルホテル2F「まゆだま」 前橋市大手町1-9-7 TEL027-223-6111 (懇親・交流会費含む)

## 意思を継ぐ



有限会社下仁田納豆 代表取締役社長 南都 隆道氏

トステムで設計を担当していたが、30歳のときに廃業寸前だった家業の納豆製造・販売業を継ぐ。電話帳を頼りに営業先開拓を目指す。突破口を見出せず。最後と決めて尋ねた豆腐製造業の社長から「シンプルな商品だからこそ原材料は最高級のものを使用しろ」と助言を受ける。北海道産の大豆や経木を使用するなど方向転換したところ、全国の百貨店、高級スーパーとの取り引きに成功。納豆を発酵させる室は国内で唯一炭火を使用。テレビでも紹介されるなど各方面から注目を集めている。群馬工業高等専門学校卒。甘楽郡下仁田町出身の55歳。

## 伝統を繋ぐ



株式会社竹中組 代表取締役社長 竹中 隆氏

文久元年(1861年)、鳶(とび)職として創業、以来、地域に根差し続けてきた「竹中組」。常にお客様、お得意様の人生と共に歩んだ150年。そして「お得意様の喜び、悲しみを我ことと思う」「スピードにあわせた対応」「ご満足いただける品質」「不安にさせない安全対策」「適正価格」を竹中組の本質に掲げ6代に渡る。竹中組の「組」は組織を表す言葉で1つのグループと位置付け、竹中&カンパニーとして、得意先は人生を共にするパートナーとする。長い歴史の中で継続する意義、組織が維持する事の重要性を竹中隆氏が語る。早稲田大学政治経済学部卒の56歳。

スケジュール	事業創造講座	14:00~18:30
14:00~14:10	開会挨拶	群馬ニュービジネス協議会会長 中島 利郎
14:10~14:15	講師紹介	群馬ニュービジネス協議会専務理事 三谷 徹男
14:15~15:05	プレゼンテーション1	有限会社下仁田納豆 代表取締役社長 南都 隆道氏
15:10~16:00	プレゼンテーション2	株式会社竹中組 代表取締役社長 竹中 隆氏
16:00~16:30	トークセッション	ファシリテーター 佐藤弘男氏・三谷専務理事
16:30~16:40	閉会挨拶	群馬ニュービジネス協議会副会長 高橋 弘樹
16:50~18:30	懇親・交流会(名刺交換会)	

主催：一般社団法人 群馬ニュービジネス協議会

〒371-0843 前橋市新前橋町17-36 中央総研ビル4F TEL027-254-3220